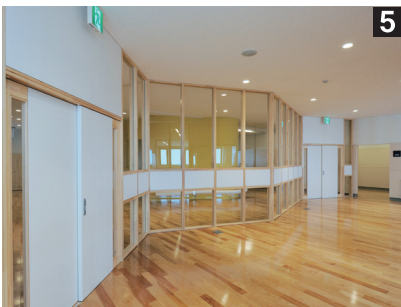




3



4



5



1



2

1. 庶路学園は高台に建てられ、災害時の避難所になっています。2. 2018年2月28日に完成した庶路学園は、2018年度の北海道赤レンガ建築賞で奨励賞を受賞しています。3. 建物は庶路こども園と合築されており、西側がこども園の玄関となっています。4. 給食の運搬などで使われているエレベーター。横では手が洗えます。5. 職員室。中の様子が見えるようガラス張りになっています。

などの「中1ギャップ」を防ぐことや、小学校(前期課程)と中学校(後期課程)の滑らかな接続が大きなメリットです。

開校前から、庶路小学校と庶路中学校とで連携してやってきましたが、言葉で言うほど簡単なことではなく、たとえば中学校の先生が小学校で1時間の授業をすることも、移動や事前の打ち合わせなどで2、3時間はかかってしまいます。一言で「連携」といってもかなりの労力を使っています。現在は、小・中学校が同じ校舎で、同じ空間で一緒に過ごすことにより、これまで中学校の先生が気づかなかった小学生の姿や、小学校の先生が気づかなかった中学生の姿を知ることができました。さらには、小学校と中学校の教員同士がお互いを理解し、それぞれの良さを取り入れることで、教員自身の力量が確実に向上しています。

もう一つは、9年間を通して一貫したカリキュラムを編成できることです。また、これまでは小学校の6年間と、中学校の3年間で「6・3制」でしたが、庶路学園は「4・3・2制」をとっています。小学1年から4年までの4年間で「初等部」、小学5年から中学1年までの3年間で「中等部」、中学2年から3年までの2年間で「高等部」とした「4・3・2」という区分で取り組んでいます。今の子どもたちは、昔と比べて成長が早くなっており、小学5年くらいから心も体も大きく変化してきます。そのため、子どもたちの成長過程を踏まえた区切りとし、子どもたちの気持ちに寄り添った教育活動を行っています。

を「中等部」、中学2年から3年までの2年間で「高等部」とした「4・3・2」という区分で取り組んでいます。今の子どもたちは、昔と比べて成長が早くなっており、小学5年くらいから心も体も大きく変化してきます。そのため、子どもたちの成長過程を踏まえた区切りとし、子どもたちの気持ちに寄り添った教育活動を行っています。

「4・3・2制」の良いところはもう一つあって、小学校と中学校だとそれぞれ最上級生(小学6年・中学3年)がリーダーシップを発揮する場面が多くなります。「4・3・2制」だと4年次、7年次、9年次にリーダーとなる場面を設定することができ、義務教育期間中に、より多くの主役となる経験を積むことができます。その中から下級生への見本になろうとする態度が育っています。

——義務教育学校の特徴の一つとして、中等部(5年生)から教科担任制を導入していることがあると思います。

「中等部」から原則として「教科担任制」を実施しています。教員の専門性が発揮できる教科担任制によ